

今年酒

宮坂静生

日本詩歌文学館賞正賞「鬼剣舞手彫り面」

白面の鬼に走る朱今年酒
零余子童子飯に抱かれて炊きあがる
遁世の気など起こらず零余子飯

東郁子さん（明雅夫人）百一歳逝去（十月九日）

ふるさとの千灯笼へ帰りゆき
逝きし子の柱の中にある小春

蜂雀山茶花の蜜奪ひ合ひ
辣萋の塚に泳ぐを狙ひるる
石落の黄の中へ魚河岸祭かな
冬の噴水薬に女人の立ち上がる
口切のボジョレヌーボー戦火消せ

柳宗悦民藝二〇〇年

木喰の瞑目の笑みいよよ冬
骨壺に鼠志野欲し小晦日

